

## 後輩へのメッセージ

### スポーツ共創で、新たな運動会種目をつくろう！

同志社大学のPBL推進支援センターHPを確認すれば、心理学部神山貴弥先生のご挨拶が掲載されていました。それは、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていくというPBL科目の紹介文でした。

私自身は、教育と社会が連携して取り組むPBL科目に対し関心が高く、本科目を履修しました。アクティブラーニングに倣い、我々履修生が主体的に行動できるよう全力でご指導くださる科目代表の先生方。貴重な経験や失敗談を携え、履修生の悩みや疑問に対し、適切なアドバイスや助言をもってサポートしてくださった外部講師の先生方。

机の上での理論知識だけを学ぶのではなく、皆で考え、悩み、実行するという実践知をPBL科目から学びました。

社会に潜む問題を目の前に、原因を検討し、課題解決について探求することができる貴重な機会はそう多くありません。PBL科目を通じた経験は、まさに「課題探求能力」を向上させ、必ず人生の糧になると信じています。

### グローバルビレッジを撮る・観る・創る —ドキュメンタリー映画制作を通して見つめる京のムスリムと多文化共生

私達はムスリムを主人公にしたドキュメンタリー映画制作をし、多文化共生を模索してきました。ドキュメンタリー映画の制作のために、授業外で何回も主人公に会って撮影を続け、何十時間も編集し、さらにその制作した映画の上映会や上映会の為の広報活動で、HP制作やポスター、フライヤーの制作、ラジオ出演など幅広い活動を春学期でしました。この短期間に、これだけの量の活動をするにはチームの協調性や最後まで努力し続ける根気強さ、テストや就活などをしながらプロジェクト科目に参加できる体力などが必要でした。だからプロジェクト科目を取る人は覚悟が必要です。ですが、普段の大学生活では感じることでできない、成長している実感と充実感が味わえます。

### 留学生と創る！！「Cool Japan 和食職人文化読本」 制作プロジェクト(伝統文化継承など今日的課題の観点から)

和食について日本人なのにも関わらず知らないことが多すぎるといった経験はありませんか？

私たちのプロジェクトでは留学生に向けて和食の多様性と真髄を学んでもらえるような読本を作ることを目標に活動してきました。ゲストスピーカーの講演や取材を通して和食に関する知識はもちろん得られ、その他の能力面でも成長することができました。三年生になると企業のインターンシップに参加する方も多いと思いますが、言うならばこのプロジェクトもインターンシップです。プロジェクトによって、企画書の作成や取材先へのアポイントメント、社会の方と接したり、原稿を編集したりして、通常の学生生活ではできない経験をし、そしてチームワークを發揮して何かを作り上げるという点でとても達成感のある学生生活にできると思います。

## クラシック音楽のコンサートを創ろう！ ～クラシック音楽業界の抱える課題にチャレンジ！～

私はピアノを習っていた影響で以前からクラシック音楽に関心がありました。しかし、実際のクラシック音楽業界の現状について詳しくはなく、またどのようにすれば多くの人にクラシック音楽の魅力を伝えることができるのか、深く考えたことはありませんでした。そこで、このプロジェクト科目の活動を通して学びたいと思いました。

ここまでたどりつくまでの道のりは決して平たんではありませんでした。それでも最後まで続けることができたのは、自分を成長させたい初心を忘れなかったからです。座学の授業では得られない社会とのかかわりや、必要とされる技能は意識しなければ身につけません。どんな状況に置かれても自分を信じ続けられるか。その力を試された1年間でした。

ひとつのことに全力で取り組める時間があることは大学生ならではの特権です。きっかけは些細な好奇心で構いません。まだ知らない自分と出会うための一歩をプロジェクト科目から踏み出してください。

## メディアを活用した歴史まちづくり観光 (宇治市をフィールドに)

この科目では通常の座学に加えて宇治ヘフィールドワークに出かけ、そこで生活している人達にインタビューをしたり、歴史的観光物を見ながらその背景に目を向けたりと主体的に宇治の魅力を再発見していく授業です。サポートしてくれる講師陣も実際のメディア現場で働いていた人達で、プロ視点で直接意見やアドバイスを聞くことができ、自分の映像制作技術に磨きをかけることが出来ます。映像制作、そして上映会を通して学ぶことができる「伝える」ことの面白さややりがい、そして嬉しさは言葉に表しがたいです。「映像制作に興味がある」「宇治ってどんなところかもっと知りたい！」という学生さんたちにピッタリな授業だと思います！

## 地域課題解決に資するコミュニティカフェの デザイン

秋学期は、統計資料や春学期のイベントの経験から仮説を立て、その解決に資するCCを企画しました。しかし、全3回のイベントをやって行く中で、実際に地域で生活されている住民の方が感じている課題と、自分たちが予想した課題にはギャップがあることに気づき、そこからイベントの内容を柔軟に変え、より具体的な地域住民のニーズを探っていきました。デザインが目的となっているプロジェクトですが、企画から実施まで、全体を通して「調査」の視点を持って活動することが大切だと、今振り返って感じます。

最後に、CCチームでは、イベント準備の段階から大学や講師の先生はもちろん、住民の方、地域の企業さんや小学校など、たくさんの方にご協力、応援を頂いて企画を実現することが出来ました。初めてのことも多く大変な時もありましたが、失敗しながら経験を積むことができるのは、学生の特権だと思います。自分たちがやりたいことを先生や地域の方に積極的に発信して、周りの方に上手に頼りながら試行錯誤してみてください。

## 京都発！「子育て×働く」のリアルを追求する、キャリア教育探求プロジェクト ～ワーク&ライフ・インターン～

このプロジェクト科目は、自由度が高い分何より学生自身の好奇心や行動力が大切になってくると実感しました。しかし、大学の事務局、科目担当の先生のサポートや人脈等をフルで活用することができ、自分に好奇心ややる気があればやりたいことはたいてい全てできる非常に恵まれた環境で活動を行うことができます。自分たちで一から企画を考えて実行するため、それが完成したときの達成感言葉では表しきれないほどのものでした。これまでに出会ったことがない、初めて出会う学生と同じ目標・目的に向かって活動に熱中できるこのプロジェクト科目は自分自身を大きく成長させられる素晴らしい環境です。ぜひ仲間と熱中して最高の達成感を味わってみてください。

## 京都・伏見で酒蔵ツーリズムのしくみをつくる

正直、プロジェクト科目は楽なものではありません。答えのない問いに取り組み、悩んだ末に出した結論が報われないこともありました。おそらくどの授業を選んだとしても同じような苦しみがあると思います。しかし、そういった厳しさがあるからこそ本気で取り組む価値があったのだと思います。そしてそこから得られた経験は何物にも代えがたいものになりました。これから履修を考えている方達には相応の覚悟をもって履修してほしいと思います。決して楽なものではありませんが、全力でやりきれば自分自身の成長を実感できると思います。自分自身を変えたいと思っている方や大学生活に満足していない方にはプロジェクト科目は最適だと思います。

## 「多様性が拓く未来を考える」プロジェクト～公開フォーラム開催を通じて多様な個性が生きるチームづくりと対話型リーダーシップを学ぶ～

このプロジェクトに大きな学びを得て、大きな可能性を感じている私ですが、残念ながら来年度このプロジェクトが開催されることは叶わないみたいです。

この文を読んで何かを感じられた方は是非、その一歩を踏み出してみてください。町の「対話」の場に参加してみる、今年度の履修生に声をかけてみる、私や指導教員の方に連絡を取ってみる。「対話」の本を手にしてみる、他のプロジェクトに参加する。何でも構いません。そんな一歩が大学生活には溢れていますし、その一歩が1年後、想像もしない自分を作り上げているかもしれません。

願わくば、この大学が「対話」や「多様性」に溢れ、よりステキな大学となっていくことを願っています。